

令和6年度 新金沢型学校教育モデル実践推進事業 報告書

学校番号 119

学校名 千坂小学校

校長名 濱崎 紀世美

読解力向上推進校

担当者名 若林 晶子

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 自分の考えをもつ指導の工夫

児童が主体的に考えをもととするための環境の設定をしたり、どのように考えればよいのか見通しをもてるような指導を行ったりすることで、どの子ども自分の考えをもつことができるようにする。

①単元末に制作する成果物や目指す姿のモデルを提示し、見通しを持たせた。

②自分の考えをもつ場面では、明確な視点を示した。

③自分の考えを表出する教材の工夫（全文シートや付箋、ICTなど）を行った。例えば、全文を横一列に並べた全文シートを用意し、必要に応じて折り曲げ、初めと終わりの段落を隣り合わせで、見比べやすくなるようにした。

(2) 重点2 ねらいにせまる手立ての工夫

授業の展開場面において、子どもの思考を想定し、発問や学習環境（板書・学習形態・ICT機器）を計画し、子どもがねらいを達成できるようにする。

①考えを深めたり、新たな考えに気づいたりできる発問の工夫をした。各教室に掲示してある「考えの達人」を生かして「みんなの考えの共通点はどこかな？」などの発問をするなどした。

②展開に合わせて板書したり、学習形態（ペアやグループなど）を変えたりして、子どもたちがより主体的に考えたり表現できたりするようにした。

2 研究の重点と具体的な取組の内容

(1) 児童アンケート

	1学期末	2学期末
自分の考えについて理由をはっきりさせてもつことができていますか。(重点1)	85%	81%
授業の中で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。(重点2)	80%	83%

(2) 教員アンケート

	1学期末	2学期末
思考力・判断力・表現力等を身に付けるための具体的な手立てを実践している。(重点1)	100%	100%
ねらいにせまるために ICT 機器・考え方の達人を活用したり、学習形態の工夫を準備・実践できている。(重点2)	90%	100%

(3) ノート分析

	1学期末	2学期末
教師が設定したB規準の記述ができている。(学習評価)	93%	87%

児童アンケートについては8割以上の肯定評価を目標に取り組んでいる。2項目ともその目標を達成することができた。教員アンケートについては、教員も年間を通じて共通実践に対する肯定評価が9割を超えている。学校全体で重点について粘り強く取り組んできたことが結果につながったと思われる。また、ノート分析においては、教師が期待する子どもの姿(ノートの記述・言語活動)に到達している割合が8割を超えていた。

3 成果と課題

・新金沢型学校教育モデルの「読解力向上」を受け、本校では、読解力を身に付けた姿を「根拠を明確にして ゴールに到達した姿」と捉え、意識して取り組んできた。導入では、ゴールまでの見通しをもたせ、子どもたちが主体的に、必要な情報を集め、根拠を明確にして自分の考えがもてるように指導を工夫してきた。具体的なゴールの姿を、教師と子どもが共有することで、教師が期待する子どもの姿に到達しているの割合が目標値を大きく上回ることに繋がったと考える。また、根拠を明確にさせた自分の考えをもたせたことで、意欲的に友達と考えを交流する姿が見られた。

・展開に応じて、学習形態の工夫を行ってきた。ペアやグループで意欲的に交流している姿が多く見られたが、ねらいから逸れてしまう姿も見られた。子どもたちにねらいに合わせた話し合いの視点を提示したり、目的意識を明確にもたせたりするなどして、子ども同士のねらいにせまる対話ができるようにしたい。